

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.97/2024.1]



「星の植物」 テラオ ハルミさん作

プラネタリウム



惑星 (planet) と見る場所 (-arium) という意味を持つ「プラネタリウム」は、2023年に100周年を迎えた。プラネタリウムの歴史や仕組みについて、名古屋市科学館の持田大作さんに聞いてみた。

人々を魅了する 星空の誕生

夜空に瞬く無数の星たち。その星たちが再現されたプラネタリウムを、初めて見た時のことを覚えていらっしゃるだろうか。暗くなったドームいっぱい煌めく星の美しさに、思わず感嘆の声をあげた方も多いだろう。

プラネタリウムは、自ら光を発する恒星の位置を表す天球儀と、惑星の動きを表す天体運行儀が合わさったものだ。その誕生は、今からおよそ二〇〇年前。ドイツ博物館の創設者、オスカー・フォン・ミラーの構想から生まれた。

ミラーは、科学技術をテーマにした博物館で、天文について星空の仕組みを展示したいと考えていた。だが、その構想を現実化するには困難を極め、製作する技術者がなかなか見つからなかった。

それでも諦めきれないミラーの情熱と説得により、ドイツの光学機器メーカーのツァイス社が製作に挑むことに。そして一九三三年一月二十一日、ドームに星の光をレンズで投影するプラネタリウムの試験投影が、初めてドイツ博物館で行われた。その後、装置の改良や試験投影が繰り返され、一九二五年五月七日、ついに常設公開の日を迎える。ドームに約四五〇〇個の恒星と太陽や月、惑星が現れた時、人々は驚き、大きな拍手が沸き起こったそうだ。誰もが一瞬にして、その美しさに心奪われたことであろう。

この時に作られた投影機が、「ツァイスI型」と呼ばれる、世界初の光学式投影機である。

アイジガーのプラネタリウム

オランダのアマチュア天文家のエイゼ・アイジガーが自宅を改装して作った、見上げるタイプの太陽系模型です。1774年に起きた木星、火星、金星、水星、月が一直線に並び惑星直列の現象が不吉なものだと不安がる当時の人々に安心してもらうために作った、惑星の動きを説明する装置です。現代プラネタリウムのルーツとして、現存する最古のものとなっています。



アイジガーのプラネタリウム(複製) 名古屋市科学館

精巧に作られた装置

では、どのようにして星は映し出されているのだろうか。光学式投影機の仕組みについて、簡単に紹介しよう。

まず、プラネタリウムの装置は、恒星を映す恒星球と、ミニチュアの太陽系が入った惑星棚という、大きく二つの装置から構成されている。それらを動かす機能として、日周運動、年周運動、歳差運動、緯度などの回転軸がある。回転軸を個別に動かせば、さまざまな時間と場所の星空を再現できる。今日の星空はもちろん、見たい時代の年数分だけ回転させれば、過去へも未来へも自由にタイムスリップできるのだ。ちなみに、何百年単位で時間が変わっても、恒星の並び(星座)はほとんど変わらないが、惑星はまったく違う星座の位置にいたりするそうだ。



投影機の電球 (ツァイスIV型 初期)

恒星は、恒星原板と呼ばれる星の位置に孔をあけた薄い円板に電球をあて、孔から出た光はレンズを通してスクリーンへと映しだされる。ここで一つ問題になるのが、星を表現する点状の光をいかにシャープに映すか。どうしても投影範囲が広くなる

孔が大きいほど明るい

星の明るさは、恒星原板の孔のサイズで決められています。孔が大きいほど明るく、小さいほど暗い星を投影します。小さな孔がたくさんあけられれば、何億という星を映すことも可能です。

投影機 (ツァイス型二球式)

- ① 恒星球 投影機の本端に16個ずつ、合計32個の恒星を投影するユニットを備え、全天の恒星を表現できる。
- ② 惑星棚 水星、金星、火星、木星、土星、月、太陽を投影する装置。
- ③ 日周運動 地球が北極と南極を軸に1日1回自転する東西の動きを再現。
- ④ 年周運動 地球を含む惑星が太陽のまわりを公転し、地球のまわりを月が公転する動きを再現。
- ⑤ 歳差運動 地球の自転軸が2万5800年周期で行う首振り運動を再現。
- ⑥ 緯度変化 北極に行ったり、南半球の空を見る時の南北の動き。

びたりばやけたりして、ゆがみが出やすくなってしまう。点状の光をくっきり出すには、投影範囲を狭める必要がでてきた。そこで、全天を三十二分割にして恒星原板を作ることで、あの美しい点状の星を実現できるようにになった。

星の位置観測は人の目!?

星の位置や明るさは、現代は衛星「ガイア」などで調べられますが、衛星や望遠鏡ができる前は、一つひとつの星の動きを人の目で観測されていました。プラネタリウムのリアルな星空は、そういった人々の大変な作業の積み重ねによりつくられています。

日本はプラネタリウム大国

ドイツで生まれ、世界各国で楽しめるようになったプラネタリウム。日本には現在三〇〇近くのプラネタリウムが全国各地



地域にあり、米国や中国とともに世界でトップ3に入る設置数を誇っている。実はプラネタリウム大国だったのだ。

日本に設置されているプラネタリウムの特徴は、大型のプラネタリウム館が多いこと。内径が三五mという世界最大級のドームでギネス記録を持つ名古屋科学館をはじめ、愛媛県総合科学博物館、北九州市科学館、多摩六都科学館など直径二五m以上の館が多数ある。

全国のプラネタリウムを訪れた人の総観覧者数は、コロナ禍になる前の二〇一九年までは、年間で八〇〇万人以上。新型コロナウイルスが落ちてきた近年でも五〇〇万人近くの人が来場している。案外プラネタリウム好きな人が多いのかもしれない。

ちなみに、日本では一九三七年に、初めて大阪市立電気科学館にツァイスII型が設置された。名古屋には、一九六二年に

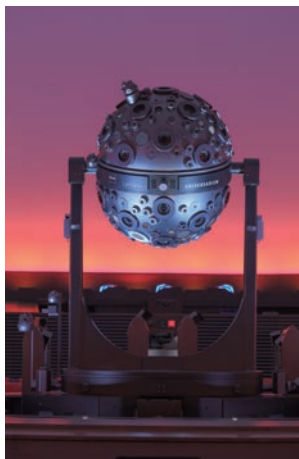
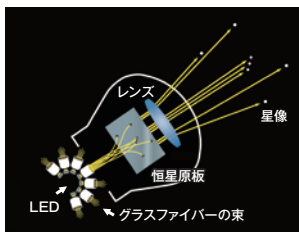


投影機 ツァイスIV型

にこだわってきた

装置だ。現在は光源と恒星原板の間をガラスファイバーでつなぎ、孔に直接光を導くことで、さらに鋭く輝く星の光を実現している。デジタル式は、そんな光学式のシャープさに比べると、少しぼやけた感じの星の光になる。だが、地球から飛び出した視点で見る宇宙など、まるで宇宙旅行をしているような迫力ある映像は感動ものだ。

科学技術の発展とともに進化してきたプラネタリウム。今、次の段階へ進み、投影するのではなく、ドーム全体がLEDパネルになって映像が映し出されるものが登場。つまり、ドームのスクリーンはすべてがテレビ画面になっているのだ。テレビを観ているかのような鮮明さが特徴で、次世代のプラネタリウムとして、またひと味違う雰囲気を楽しめる。



光学式プラネタリウム ユニパーサリウムIX型

プラネタリウムに行こう！

名古屋のまちの中に浮かぶ、大きな円球がある。名古屋科学館のプラネタリウムだ。その円球の中で煌めく九一〇〇個の星でつくられる空は、山の頂上で寝転がって見上げる星空のように美しく、ワクワクする。

九一〇〇個という星の数は、実際の空の明るさのバランスを表現でき、人の目で見える一等星から六、五五等星までの星の数だ。そこには、「限りなく本物の空を再現したい」という学芸員の皆さんの思いが詰まっている。

名古屋科学館のプラネタリウムは、とても広く、リクライニング

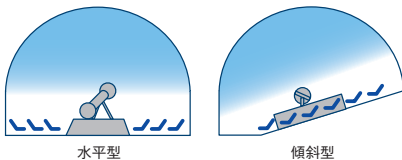


市立名古屋科学館が開館した時に、ツァイスIV型が設置された。

ドームの形状と座席の配列

プラネタリウムの形状でばつと思いつくのは、半球型の丸いドームだろう。外観の形状でいうと、ドーム型、球型、円筒型、箱型があるが、中のスクリーンは基本半球型のドームだ。そしてドームには、床面に対して並行に設置された水平型と、階段状の座席にあわせて斜めに傾けて設置された傾斜型がある。

座席の配列についても、大きく分けると、投影機を中心に円く配列された同心円式と、映画館のように同じ方向へ向いた一方向式がある。同心



円式では、実際の夜空を見上げるような感覚で楽しめ、一方向式では同じ向きを見るため、映像作品の上映に向いている。そのほかにも、同心円式と一方向式の特徴を合わせた馬蹄形式や、回転する座席などもある。

投影機の種類

プラネタリウムには現在、光学式とデジタル式がある。一つひとつの星をスクリーンにシャープに映し出して星空をつくるのが光学式なら、星空、または宇宙という一つの世界をコンピュータグラフィックスでスクリーンに投影するのがデジタル式だ。大きな違いは、星の光のシャープさだろう。

もともと光学式は、星の光のシャープさ



グでできる座席も一席ずつ独立しており、しかも左右に回転でき、学芸員の解説にあわせて自由に動いて星空を見渡せる。

特徴の一つである学芸員の生解説では、今夜の星の探し方から、その時々々の天文現象や、天文や宇宙についてのさまざまな話題の話が楽しめる。ゆったり星空を眺めながら聞こえてくる、解説の声がとても心地よい。

「プラネタリウムを見た後、本当の星空にも興味を持つてもらえるとうれしいです」と話してくれた持田さん。



名古屋科学館 学芸員(天文) 持田大作さん

プラネタリウムで満天の星を見た後、きつと本物の星空も見たくなるだろう。

名古屋科学館プラネタリウム



ドーム径／内径35m、座席数350席
光学式の投影星数／9,100個
投影機／ユニパーサリウムIX型(光学式)と、コンピュータで計算した星空をプロジェクターで投影するMediaClobe Σ SE(デジタル式)など
休館日／毎週月曜日(祝日の場合は直後の平日)、毎月第3金曜日、年末年始(12/29～1/3)他臨時休館あり。詳しくは名古屋科学館ウェブサイトをご覧ください。

取材・撮影協力、写真提供／名古屋科学館

参考資料／「星空をつくる機械」井上毅著(株式会社KADOKAWA)、「プラネタリウムの疑問50」五藤光学研究所編者(小川啓人発行)、「プラネタリウムへ行きたくなる本」小林悦子編著者(株式会社リパティ書房)、日本プラネタリウム協議会ホームページ

私が広告業界に興味を抱いたきっかけは、大学一年生の時にたまたま手に取った『小説電通』という一冊の本です。この本を読んで、初めて広告代理店という仕事を知りました。どういう仕事をかを調べていくにつれ、「電通で働いてみたい」という気持ちが強くなり、今に至ります。



電通に入社してからは、新聞広告やテレビ、スポーツマーケティングなどさまざまなメディア・コンテンツの仕事に携わりました。初めて担当したのは新聞広告。担当当時は最も新聞広告に活気があり、とにかく仕事に追われる毎日、大変でしたね。入社して六、七年目の頃に、担当していた朝日新聞さんの創刊百二十周年記念と、テレビ朝日さんの開局四十周年記念を兼ねた事業に携われる機会がありました。坂本龍一さんの初のオペラ公演という大事業に、電通は協賛金を集める部分でお手伝いしたのですが、多くの企業の協賛があつて初めてイベントが成り立つことを実感できた仕事でした。構想から上演まですべてのプロセスを見ていたので、初日を迎えた時に感極まつて涙したことを、今でもよく覚

えています。広告とはまた違う文化・エン

ターテイメント事業に関われたことで、自分の仕事の社会的意義や価値を改めて認識でき、自分の中で一つの土台となるものを得られました。

広告コミュニケーションは、伝えるという根本的なところは変わりませんが、表現方法や発信・伝達方法などは時代の価値観に合わせて変化し続けています。今の時代の価値観に一番近いものを持っているのは若手社員ですから、元気ががんばってほしい！ですが、なかなか失敗を恐れて自ら挑戦をしようとしないうち。私が若手の頃は、やりたいことを見つけては挑戦していました。ほとんどが上手くいきませんでしたけど（笑）。しかし、失敗することで多くのことを学び、成長できました。また失敗して学んだことを共有することで、ほかの人も同じように学ぶことができます。挑戦、失敗、学び、共有は、社員、延いては会社が成長していくための大切なプロセスです。そのために、若手社員が挑戦できる場をつ

くり、良いところを引き出し伸ばしていく指導や育成をすることが、我々経営者やマネージャーの役目だと思っています。

私は名古屋へ来る前に、新聞局長として北海道から沖縄まで全国の新聞社を訪れ、全国各地域には、それぞれの良さや魅力があり、一つとして同じところはないということ、肌で感じました。その時に、大学からずっと東京にいて、東京でがんばることに価値があると勝手に思い込んでいた私の考えが一新され、東京だけが元気でも日本はダメだということに、この歳で改めて気づかされました。その気づきがあつての今回の名古屋転勤は、私にとって大きな意味を持つものになりました。

名古屋にはもともとモノづくりの基盤があり、裕福な地域という印象を持っていました。いろいろ調べていくと、農業や水産業も盛んで、全国でトップシェアを誇るものの多さに驚きます。愛知は花の出荷量が日本一なのですね。初めて知りました。名古屋めしなど独自の食文化もあり、さまざまなところで豊かさを感じています。地域の文化は生活の土台です。文化を守り発展させていくことで地域が活性化し、日々の豊かな暮らしにつながっていきます。そこでとても重要なのが、子どもたち

への教育。さまざまな側面を持っていますが、今後重要視されてくるのが、正解のない問い、あるいは問いのないところに問いをつくるといった考える力を養う教育ではないかと考えています。特に私が、クリエイティブ力が必要とされる広告業界にいるからそう感じるのかもしれませんが。

教育は未来をつくるプロセスそのものです。学校教育で補えない部分は、周囲がバックアップするなどの体制が整っていくといいですね。愛銀教育文化財団が行っている高校生への歌舞伎鑑賞の支援活動なども、その一翼を担っていると思います。そんな素晴らしい活動をされている財団の理事に就任し、微力ながら教育や文化に貢献できる、ありがたい機会をいただき、うれしく思っています。

初めて赴任した名古屋で、今しっかりと仕事ができているのは、あたたかく受け入れてくれている皆さんのおかげです。『刻石流水』という好きな言葉のとおり、このご恩をしっかりと名古屋の役に立つことでお返ししていければと思います。そして、ゆくゆくはこれまで経験してきたことを活かして、地域に貢献できる何かに挑戦していきたいですね。日本がもっと元気になるために。――談――

全国の各地域が元気であれば、日本はもっと元気になるります。

新井秀夫

株式会社電通名鉄コミュニケーションズ代表取締役社長（densetsu Japan 中部代表、愛銀教育文化財団理事）



■新井秀夫 プロフィール

1970年、群馬県に生まれ、高校まで過ごす。早稲田大学商学部を卒業後、1993年に株式会社電通に入社。MCプランニング局部長、2020プロデュースセンター局長補、新聞局長を経て、2023年1月より現職。大学時代に出会った“和して同せず”という言葉が、事あるごとに思い出す、仕事、そして人生において一つの軸となっている。

「演劇との出会いは私の宝物であり、役者は私の人生です」

名古屋を拠点に演劇活動を行う役者、廣瀬菜都美さん。初めて演技をしたのは小学六年生の時、テレビドラマのオーディションであった。その時、なぜか始めたのが、三角関係の即興ドラマ。一人で三役を演じて、演技する楽しさを知る。

「役者のおもしろいところは、自分ではない何かになれることです」

役づくりで大切にしていることは、役と仲良くなり、お客さまに嘘と感ぜさせない演技をすること。

「舞台をしていると、ごく稀にお客さまの顔も見えなくなつて、音も聞こえなくなる瞬間があります。セリフや動きが意識しなくても、自然に出てくるんです。役と自分が重なるというのでしょうか。役者にとつてとても幸せで、奇跡的な瞬間です」



演ずる醍醐味を語ってくれた廣瀬さん。そんな瞬間をできるだけ長くお客さまに観ていただけるよう、稽古を積んでいる。

社会活動が抑制され、演劇活動も抑制されたたコロナ禍。廣瀬さんは、役者の人たちに

にはどうか耐えてほしい、お客さまには待っていてほしいと強く思っていた。

「演劇は、なくても生きていけます。しかし、日常を忘れられ、非日常の世界を味わえる時間は、少しでも人生を豊かにしてくれるものだと思います」

演劇が映画を観るような感覚でたくさんの人たちに広がることを願う廣瀬さん。そのため、活動を演劇一本に絞らないと決めている。モデルやタレントなどさまざまな活動を積極的に行うことで、廣瀬さん自身を知ってもらい、「あの人が出演している舞台があるなら行ってみよう」という、劇場へ足を運んでもらえるきっかけになるかもしれないからだ。

「将来は、演劇を観たことがない人たちに向けた舞台をプロデュース公演し、観劇人口の裾野を広げていくことに挑戦してみたいです！」

どんな役でも演じるには、まず自分が幸せであることが第一だという廣瀬さん。何があっても諦めず、諦めず、続けていく、「二生役者宣言」をし、名古屋の演劇界を盛り上げていく。



ショートフィルム「五時のメロディ」※

役者を一生辞めない、諦めないで、名古屋の演劇界を盛り上げたい!

演劇をとおした芸術活動
廣瀬菜都美さん
第32回助成(個人)

2006年にNHKの「中学生日記」への出演を機に役者を始める。年に4、5本の舞台に出演。劇団BRATS「ヒモのはなし」(2023年上演)、俳優館 文化庁の日本の演劇人を育てるプロジェクト「かもめ」(2021年上演)、名古屋市製作のショートフィルム「五時のメロディ」(2023年公開)など多数の舞台や映画への出演をはじめ、ドラマやCM、テレビ、ラジオなど幅広く活躍。

※「五時のメロディ」スピンオフショートフィルム「mon petit voyage ～私の小さな撮影旅行～」(全5話)が2023年11月より公開、順次配信

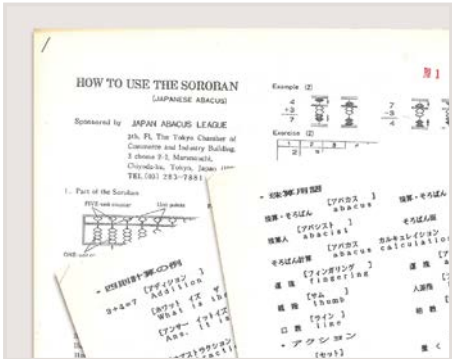


英語珠算研究会が、毎年十二月に開催している『英語珠算競技大会』。そろばんの読み上げ算が競われる会場で響き渡るのは、「願ひましては、一〇〇円也…」ではなく、「Starting with one hundred dollars (スターティング ウィズワン ハンドレッド ドララーズ)」。

また、日本の伝統文化を知ってもらおう目的で、特別に海外からの留学生も電卓持参で参加。十二桁などの足し算や引き算を、そろばんを使って計算するその速さに驚き、刺激を受ける人が多いという。

この英語珠算競技大会を、東海地区で最初に立ち上げたのが、英語珠算研究会の会長である黒川譲二さんだ。

黒川さんは、選手として第一線で長く活躍しているが、かつて国際大会への出場や、海外で珠算指導を行う際に、言葉、でもどかしさを感じるがあった。もつと英語



が話せれば、もつと交流ができるのにと。そんな想いから、数字を通して、日本の子どもたちが英語に興味を持つきっかけになればいいなと考えた。

「英語珠算では、数字を日本語に置き換えて考えている、間に合いません。大切なのは、英語のまま理解すること。それが役立つ英語として、英会話においても活かされてくるのではないかと考えています」

一桁の数字の読み方の練習から始め、徐々に桁数を上げていき、まずは英語に慣れる。繰り返し聞くことで、最初はよく聞き取れずとまどう子どもたちも、日本語と同じように珠をはじけるようになっていく。

指で珠をはじくことで、からだで計算の仕組みを覚えられる手法として、海外からも関心を寄せられるそろばん

「集中力と記憶力が身につく、脳の活性化にも役立ちます。そこに英語という要素が加わることで、さらにさまざまな世界が広がっていくものだと思います」

英語珠算研究会の活動が、日本そして世界でそろばんを学ぶ皆さんをつないでいく。



そろばんを通して国際交流! 日本の伝統文化に触れられる英語珠算。

英語珠算に関する研究と練習会
英語珠算研究会
第32回助成(団体)

会員約30名で活動。1996年に英語珠算研究会を創立し、日米国際親善競技大会をハワイで初めて開く。その後、ハワイとロスアンゼルスで計8回開催。東海地区では1997年に初の英語珠算競技大会を行い、現在は毎年12月に行っている。小学校などでの指導、普及活動をはじめ、会として年4回の会議および練習会を実施。今後は、新型コロナウイルスの影響で止まってしまった、海外での国際交流を再開させていきたいと考えている。

代表の
黒川譲二さん



2023年 8月

- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
夏休みファミリー劇場2023 ミュージカル「裸王」アンデルセン「裸の王様」より〔千種文化小劇場（名古屋市千種区）〕
- 足助ゴエンナーレ実行委員会（文化イベント） 第27回助成・団体
浪 raw-0Z-尾頭・山口佳祐の「動き出すライブイベント」〔白鳥庭園（名古屋市熱田区）〕
〈ワグジョブ企画運営〉アークロス「キラキラ10代をアークロス」〔小牧市中央図書館（小牧市）〕

2023年 9月

- 菅谷瑞恵さん（教育・演劇） 第33回助成・個人
ソロチンスクの定期市 ～ディカーニカ近郷夜話より～に出演〔千種文化小劇場（名古屋市千種区）〕

2023年 10月

- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第63回定期演奏会 指揮：鈴木秀美（三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区））
横山幸雄× ACO 特別演奏会 ベートーヴェン協奏曲ツィクルス Vol.1〔愛知県芸術劇場コンサートホール（名古屋市東区）〕
- 合唱 CORMI 第34回助成・団体
CORMI CONCERT Vol.5〔東海市芸術劇場大ホール（東海市）〕
- 中野金弘さん（地域劇団の指導・育成） 第8回助成・個人
青塚古代音楽絵巻第7章 語りて出演〔青塚古墳史跡公園（犬山市）〕
- Office KAN（演劇） 第28回助成・団体
戦国ミュージカル「覇王の光」〔昭和文化的小劇場（名古屋市中区）〕
- むすめかぶき 第31回助成・団体
芸術を通じた愛知の文化遺産活性化事業「桃山の美とこころが遺したもの」に舞踊を奉納〔瑞泉寺（犬山市）〕
- 古井戸芳生さん（現代美術） 第12回助成・個人
「私の回りのアートする人々」に出演〔Qの美術館（千葉県茂原市）〕
- 安藤源一郎さん（漆芸） 第27回助成・個人
第4回 安藤源一郎 漆芸展〔松坂屋名古屋店美術画廊（名古屋市中区）〕
- 濱田樹里さん（日本画） 第23回助成・個人
古川美術館 特別企画「濱田樹里日本画展 昇華の天地」〔古川美術館（名古屋市中区）〕
高橋龍太郎コレクション「連携企画」川端龍子+1に出演〔大田区立龍子記念館（東京都大田区）〕
- 旭如会（琵琶演奏） 第22回助成・団体
第五十五回琵琶の会「平家物語～紅白戦語り～」〔名古屋市芸術創造センター（名古屋市東区）〕
- 神村泰代さん（アート作品制作） 第31回助成・個人
2023長者町錦コトプロジェクト「町を紡ぐ 空を縫る」、2024長者町錦コトプロジェクト「町を紡ぐ 空を縫る」〔長者町コトビルグラウンド（名古屋市中区）〕

2023年 11月

- 名古屋合唱団 第15回助成・団体
創立85周年記念 演奏会〔三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）〕
- 菅谷瑞恵さん（教育・演劇） 第33回助成・個人
「炎八景 ハナビラチギリ」に出演〔千種文化小劇場（名古屋市千種区）〕
- はせひろいちさん（劇作・演出） 第8回助成・個人
劇団ジャブジャブサーキット公演 ミッシングリンク～昔、サンタが座っていた場所～ 作・演出〔セツ寺共同スタジオ（名古屋市中区）〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第65回定期演奏会 B～東混シリーズ～ジュエルジュ・リガティ生誕100年記念 指揮：鈴木優人、第66回定期演奏会 A 指揮：山下一史〔三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）〕
- 奥三河音楽連盟 第8回助成・団体
第48回 新城音楽祭〔新城文化会館大ホール（新城市）〕
- 大嶽隆司さん（俳優・舞台演出） 第34回助成・団体
てふてふの会 演劇公演 Vol.2「ねえ、母さん。」台本・演出〔千種文化小劇場（名古屋市千種区）〕

仲間達の近況メモ

- 斉と公平太さん（美術制作） 第31回助成・個人
グループ展「3つの心臓」に出演〔熊谷守一美術館（東京都豊島区）〕

2023年 12月

- STRINGS（演劇） 第32回助成・団体
STRINGS ☆第9回公演「アラカン」〔昭和文化的小劇場（名古屋市中区）〕
- イミック新子さん（国際文化交流、絵画作品の発表） 第32回助成・個人
イミック新子 ― 子どもとパンとー〔ギャラリー名芳洞（名古屋市中区）〕
- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体
第97回定期演奏会 ～山本家寛先生を偲んで～〔新城文化会館大ホール（新城市）〕
- 藤江博子さん（ピアニスト） 第22回助成・個人
今宵は Special な Concert ～未来へつなぐ歌 そして命～ にピアノで出演〔三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）〕
- 岩田和丈さん（演劇の演出・出演） 第28回助成・個人
劇団これから 第3回公演「陽気な幽霊」演出〔損保ジャパン人形劇場（名古屋市中区）〕
- 大橋敏彦さん（金工） 第3回助成・個人
第53回 あかね会工芸展 出展〔愛知県美術館ギャラリー J2室（名古屋市東区）〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第67回定期演奏会 B チェロ：ルートヴィヒ・クヴァント 指揮：山下一史、第68回定期演奏会 A 指揮：新田ユリ〔三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）〕
- 英語珠算研究会 第32回助成・団体
2023年英語珠算競技大会（大原簿記情報医療専門学校名古屋校（名古屋市中区））

2024年 1月

- むすめかぶき 第31回助成・団体
古典の日宣言16年目をむかえ「第1回 古典の日フォーラム 美しき愛知」〔桐壺〕舞踊と朗読にて出演〔名古屋能楽堂（名古屋市中区）〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第69回定期演奏会 A ピアノ：田所光之マルセル 指揮：高関健、パッハ・コレギウム・ジャパン with ACO 指揮：チェンバロ：鈴木優人〔三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）〕
- 前川健生さん（オペラ歌手） 第34回助成・団体
チェコ音楽の祭典2023 Musica Penenka 最優秀賞受賞記念 テノール・リサイタル ～チェコとオーストリアを巡る旅（宗次ホール（名古屋市中区））

書籍・会報誌等の発行

- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
5月…「知多半島郷土史往来」第7号発行
9・11月…「はんだ郷土史だより」第110・111号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
9～12月…郷土文芸誌「駒来」第620～623号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体
9・11月…「まつり通信」627・628号発行
- 名古屋郷土文化会 第7回助成・団体
9月…「郷土文化」第78巻第1号発行
- 長久手市郷土史研究会 第13回助成・団体
9月…「胡牀石」第62号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
9月…「野田史料館報」第167号発行
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
10～2024年1月…「江南郷土史研究会会報」536～539号発行
- ため池の自然研究会 第26回助成・団体
12月…「ため池の自然」No.64 発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

全国大会への出場経験のある、春日井西高校の弓道部。部員全員が高校から始めたという初心者だ。

「単純に矢を放つて的にあてるだけの動作と思っていたけど、力の入れ方や複雑な動きがあつて難しいです」

実際に矢を放つた時の感想を教えてください。部長の西久保慎波さん。また、副部長の西垣梨夏さんも、精神状態によつて放つ矢の威力や角度が変わつてくると、弓道の難しさと魅力を語ってくれた。

弓道場では、二八m先の的に狙いを定め、集中して弓を構える部員たちの凛とした姿があり、心地よい緊張感が漂う。聞こえてくるのは、カンという矢を放つ音と、気づいたことなどを伝え合う部員たちの声。学年を問わず、お互いに矢を射る姿をしっかりと見て、教え合うことを大切にしている、西垣さんはいう。

「個々の向上心が強く、目標に向かって全員で高めあっています」

団結力があるという顧問の久保裕太先生。平日の練習時間は約一時間から一時間三〇分と短い。限られた時間内で集中して



練習を行うことにより、その集中した状態を緊張で張り詰める大会でも出していければと考えている。

「教えずに、部員自らも学んで行う練習は、いいバランスで取り組んでいます」

校長の大谷弘直先生は、短時間でも密度の濃い練習を感じとっていた。そして、心が鍛えられることで精神的にも強くなり、いい成績へとつながっていった。

「大会ではいつも以上の結果を出そうとするのではなく、いつも通りの弓道をするのが大切だと、精神面について先輩から教わりました」

また技術面でも、先輩たちが考え、行ってきた練習を引き継ぎ、後輩たちに伝えていく。

「一番大切なのは楽しむこと」という西久保さんを中心に、心から弓道を楽しんでいる部員たち。そんな部員たちに、久保先生が一番伝えたいことは、「継続する力」。一から始めたことでも、続けていくことで大会に出られるまでの力がついてくる。そこから、自信をはじめ、何かをつかみ取ってもらいたいと願っている。



常に“いつも通り”を念頭に。一矢を大切にした練習で大会に挑む。

弓道部 愛知県立春日井西高等学校 第34回援助（高校生）

現在の部員数は男子14名、女子9名。顧問の久保先生と弓道部専任教師の2名で指導。令和4年度に第41回東海選抜大会および全国選抜大会出場、愛知県高等学校弓道選抜大会にて女子団体が優勝。令和5年度には、第77回愛知県高等学校総合体育大会弓道競技にて女子が団体、個人で第3位に、第70回東海高等学校総合体育大会弓道競技にて女子が団体・個人に出場。現在、男子は県大会出場、女子は東海大会、その上の全国大会を目指して、日々練習に励んでいる。

校長の大谷弘直先生

顧問の久保裕太先生

部長の西久保慎波さん

副部長の西垣梨夏さん



編・集・後・記

一瞬にして別世界へ連れていってくれる、プラネタリウム。その満天の星をつくる装置が、今から100年前にできていたことと、その技術の高さに驚かされました。まさに宇宙へのつきることのない、人々の興味が生みだした結晶ですね。またプラネタリウムに行って、星が降ってくるような空間で、ゆったりくつろぎたいと思いました。

表・紙・作・品



「星の植物」縦30×横30×高さ3.6cm
キャンバスにアクリル絵の具
テラオ ハルミさん作（第33回助成）

●作者の言葉

犬の散歩をしていて、よく歩く遊歩道の脇に植物があり、いつも観察しながら歩いていますが、その中に星みたいな植物を見つけました。なんだかうれしくなって、絵に描きたくまりました。



あゆち第97号 ● 2024年1月

発行：公益財団法人 愛銀教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)
<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

